

皆さんは「ビッグデータ」や「人工知能（AI）」といった言葉に毎日のように接し、「21世紀はデータの時代であることぐらい分かっている」と思われるかもしれません。でも、それは画像認識や音声認識といった技術を凌（す）ぐ、と思っただけであって、社会やビジネスに与える凄（すご）さについては知らないかもしれません。

20世紀までは動力の時代でした。蒸気機関の発明で、人は石炭から動力を取り出し、工場の動力源としました。電気から動力を取り出すモーターは、洗濯機や冷蔵庫を生みました。

動力は様々な機械を生みただけでなく、社会を大きく変えました。自動車や飛行機による交通網の発達で、

## データが生む社会の変化

企業活動や日常生活の領域は飛躍的に広がり、家電製品の普及は家事負担を軽減し、ライフスタイルを変えました。

「動力の時代」では、石油や電力をエンジンやモーターに投入して動力を生みました。「データの時代」では、データをコンピュータに投入することで、予測力や分類力が生まれま

す。そして、動力が自動車や洗濯機を生んだように、予測力や分類力は、商品発注量の最適化や医療画像の自動診断といったソリューションを生み出します。

しかし、動力がもたらした最たるものは、個々の機械よりも、その普及に伴う社会や生活の変化でした。同様に、予測力や分類力がもたらす最たるものは、個々のソリューションよりも、その普及に伴うもっと大きな変化のほうです。

「データの時代」における変化は、「動力の時代」と比べて目に見えにくく、気づきにくいものです。一方、「データの時代」の変化スピードは圧倒的に速く、それに気づくものが勝者となり、気づかないものは敗者となります。残念ながら、日本企業の多くは、「データの時代」がもたらすビジネス環境の大変化に気付いていません。本連載を通して、ビジネスパーソンに「気づき」の機会を提

供できればと思います。

かわもと・かおる 大阪大学博士（工学）、神戸大学博士（経済学）。専門はデータサイエンス。